

ひょうご

職親会だより

2019.10 第43号

※ 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)は精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《報告 ①》令和元年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会
(職親会)総会報告 …………… P1

- 平成30年度事業・決算報告
- 令和元年度事業・予算計画
- 役員改選

《報告 ②》講演会…………… P5

「リカバリーを目指した就労支援」
～IPS援助付き雇用の実践～
社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院
中原 さとみ 氏

体験談…………… P7

「働くこととリカバリー」
リカバリーキャラバン隊 中村 孝 氏
リカバリーキャラバン隊 堀川 正志 氏

報告

1

令和元年度 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)総会報告

7月6日に令和元年度の総会を開催し、平成30年度の事業・決算報告、令和元年度の事業・予算計画、役員改選について承認を受けました。

●平成30年度事業報告

事業名	年月日	場所	内容
(1) 職親会研修会等の開催	30. 4.24(火)	精神保健福祉センター	○第1回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会役員会 参加者13名 【議事】 ・平成29年度事業報告・決算報告 ・平成30年度事業計画(案)・予算(案) ・平成30年度総会・講演会について
	30. 9.14(金)	兵庫県こころのケアセンター	○平成30年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会総会 (中研修室) 参加者15名 ・平成29年度事業報告及び決算報告 ・平成30年度事業計画(案)・予算(案)

	30.9.14(金)	兵庫県こころのケアセンター	○兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会講演会 (大研修室) 参加者101名 ・講演 (1) 障害者就労に関するトピックス 兵庫県労働局職業安定部職業対策課 森 昌彦氏 (2) 「ハローワークの精神科医、Dr.三好はミタ！」 ～窓口から職場訪問まで 東奔西走する精神科医が就労の実際を語る～ 神戸市精神保健福祉センター 嘱託医 三好 彩氏
	31.2.19(火)	兵庫県農業共済会館	○平成30年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会地域 研修会(兵庫県精神保健福祉大会との共催) 参加者124名 第1部:講演 「働く力を引き出すために ～知っていますか?精神障害のある方の苦労や努力を～」 医療法人尚生会 就労移行支援事業 (創)シー・エー・シー所長 北岡 祐子氏 第2部:体験談 「精神障害とつきあいながら働いています」 発表者:GMOデジロック株式会社 左川 善章氏 社会福祉法人駒どり 特別養護老人ホームふたば 信川 名未氏 コーディネーター:医療法人尚生会 就労移行支援事業 (創)シー・エー・シー所長 北岡 祐子氏 ○第2回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会役員会 参加者8名 【議事】 ・平成30年度事業報告 ・平成31年度事業計画について ・役員改選について
(2) 機関誌 「ひょうご 職親会 だより」 の発行	30.12 31.3	・ひょうご職親会だより 第41号 2,000部 ・ひょうご職親会だより 第42号 2,000部 いずれも職親会会員・賛助会員のほか、健康福祉事務所、ハローワーク、社会福祉協議 会等約450箇所に配布	
(3) 役員・会員 の派遣 (他機関協 力)	30.5.23(水) 30.6.5(金) 30.6.23(土) 31.1.17(木) 31.1.25(金)	クリスタルタワー 神戸市教育会館 JSN大阪事務所 中央労働センター 人事労務会館(東京)	平成30年度神戸・三田地域障害者雇用連絡会議・平成30年 度第1回神戸地域障害者雇用・就労支援ネットワーク会議 (事務局出席) 平成30年度第1回兵庫県障害者雇用・就労支援ネットワ ーク会議 (事務局出席) 全国精神障害者就労支援事業所連合会総会 (野村会長出席) 平成30年度第2回兵庫県障害者雇用・就労支援ネットワ ーク会議 (野村会長・事務局出席) 平成30年度JKA補助事業 事業報告会 (野村会長出席)

平成30年度 決算報告

(収入の部)

(単位：円)

区分	項目	決算額	摘要
事業収入		586,000	
	会費収入	16,000	3,000×5□+1,000×1□
	賛助会費収入(団体)	21,000	3,000×7□
	賛助会費収入(個人)	49,000	1,000×49□
	委託費	500,000	兵庫県 500,000円
事業外収入		100,005	
	寄付金	100,000	
	雑収入	5	預金利息
小計		686,005	
繰越金	前期繰越金	472,326	前年度から
計	(A)	1,158,331	

(支出の部)

(単位：円)

区分	項目	決算額	摘要
事業費		604,755	
	普及啓発費	418,608	情報誌「ひょうご職親会だより」発行等
	講演会費	134,095	講師謝金、旅費、会場使用料等
	研修会費	52,052	研修会参加費、旅費
運営費		145,164	
	役員会費	14,020	旅費
	事務費	107,600	用紙等の各種消耗品、郵送費(たより、研修案内等)等
	需用費	23,544	封筒印刷等
分担金	分担金	20,080	全国精神障害者就労支援事業所連合会団体会費
小計	(B)	769,999	
繰越金	次年度繰越金	388,332	次年度に繰越(A) - (B)
計		1,158,331	



令和元年度 事業計画

- 1 定期総会及び講演会の開催（令和元年7月6日）
- 2 地域研修会の開催
- 3 『ひょうご職親会だより』の発行（年2回）
- 4 会員の拡充
- 5 NPO法人全国精神保健職親会への参加
- 6 関係機関との連携・協力
- 7 役員会の開催



役員改選について

下記の方々が就任されることになりました。また、森本稔さんには引き続き相談役としてご協力いただきます。皆さん、今後ともよろしくお願いたします。

役職	地区	氏名	事業所
会長	姫路市	野村 浩之	有限会社サポートセンターれいめい
副会長	神戸市	石井 建三	イシイメディカルサービス株式会社
副会長	尼崎市	中村 大蔵	社会福祉法人阪神共同福祉会
理事	小野市	西村 厚一	西村牧場
監事	たつの市	宮崎 宏興	特定非営利活動法人いねいぶる
監事	姫路市	川上 真一	一般社団法人わーくわくねっと

当会の活動費は、会費・賛助会費、県委託費等によって賄われています。
平成30年度は収入686,005円に対し、支出は769,999円でした。

主な支出は講演会・研修会の開催、機関誌「職親会だより」の発行などでした。

令和年度は、事業収入を534,000円、事業外収入を5円と見積もり、それに平成30年度繰越金388,332円を加え、922,337円の予算となっています。



講演会「リカバリーを目指した就労支援」 体験談「働くこととリカバリー」

総会終了後の講演会では、リカバリーを目指した就労支援について、東京都の桜ヶ丘記念病院医療相談室の中原さとみ氏にご講演いただきました。また、リカバリーキャラバン隊としてご活躍中の当事者の方もお招きし、お話しいただきました。

講演

リカバリーを目指した就労支援 ～IPS援助付き雇用の実践～

社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院医療相談室

精神保健福祉士 中原 さとみ 氏

■ IPS援助付き雇用とは

▶ 本人の長所・意思を尊重しながら行う個別就労支援プログラムのこと。Individual Placement and Supportの略。元々は1990年代前半にアメリカで開発された支援モデルであり、日本でも重症精神障害者のほか、PTSDや脊髄損症、依存症等の障害者にも有効性が証明されている。



■ 従来の就労支援との違い

- ▶ 従来、精神障害者は「対人関係が苦手なストレスに弱く色々訓練してからでないと就労できない」と考えられてきたため、支援は訓練重視で行われてきた。就労希望者をまとめてバスに乗せ、各バス停（各々の就労先）でそれぞれを降車させていくイメージ。
- ▶ IPSは、本人の「働きたい」というポジティブな感情とタイミングを重要視した支援であり、早期から職探しを行い実際の職場にあわせた支援を行う。本人が自分で運転する車に、支援者が助手席でナビゲートするイメージ。IPSは特別な技術が必要な支援ではなく、誰が実施しても出来るプログラムである。

■ リカバリーとは

▶ 人として尊重され、希望を取り戻し、社会で生活し、自分の目標に向かって挑戦しながら人生を歩むという考え方。社会参加や働くこと、学ぶことは、リカバリーへの手がかりになる。

■ 病院でのIPSの実践について

- ▶ 桜ヶ丘記念病院では、IPSの原則（①短時間・短期間からでも一般就労を目指す、②働くことを希望する人なら誰でも参加可能、③多職種チーム、関係機関との協働、④長所や興味に着目した支援等）に基づいて支援をしている。「ストレングスモデル」の実践だと感じる。
- ▶ 本人に「働きたい」という意思があれば、スタッフが「IPSキャリアプロフィール」を作成する。
- ▶ 「IPSキャリアプロフィール」では、本人にどのような強みがあるか、どんなバリアがあるかをスタッフが丁寧に聞き取っていく。

就労支援の新しい考え方

Individual Placement And Support の略語です
個別就労支援プログラム

桜ヶ丘記念病院 就労支援プログラムの特色

- ①短時間・短期間からでも一般就労を目指します
- ②働きたい方が参加できます
- ③多職種チーム、関係機関と協働してサポートします
- ④長所や興味に着目して支援します
- ⑤個別の経済的な相談を提供します
- ⑥迅速に職探しを始めます
- ⑦企業との関係を大切にしながら職場開拓します
- ⑧就職後も継続的にサポートします



リカバリー経験者から抽出したストレングスモデルの実践としてのIPS

- ▶ 自分らしさを保つために大事にしていることや調子のよい時や注意すべき症状とその対処法等を具体的に記載するシートを、WRAPを参考にして作成し、活用している。
- ▶ 本人は治療者に、夢や身体の健康状態などを伝えていない場合がある。また治療者は本人に、病名を告知していない場合がある。就労にあたり障害の開示のメリット、デメリットを検討することは大切。
- ▶ 本人の希望に変化が生じた際には随時更新し、リアルタイムの情報を電子カルテで共有しながら支援している。

電子カルテでの共有内容 IPSCキャリアプロフィール

<ul style="list-style-type: none"> ▶ 夢、大切にしている事 ▶ 職業上の目標 ▶ 学歴 ▶ 資格 ▶ 就労歴 (プラスの体験・退職理由) ▶ 症状への対処 ▶ 薬の管理 ▶ 薬の副作用 ▶ 身体の健康 ▶ 対人関係技能 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 求職活動上の技能 ▶ 能力・適正 ▶ 興味 ▶ 労働習慣 ▶ 生活環境 ▶ 精神疾患の開示 ▶ 金銭管理 ▶ 経済状況 ▶ 日常生活 ▶ 家族の職歴
---	---

一般就労や社会参加の効能

- ▶ 一般就労は自分のリカバリーを追求できる方法の一つであろう。働くことで自信を取り戻すだけでなく、同時に生活が整い、生活全般に満足感が得られる。
- ▶ 一般就労により、本人自身のなかにあるスティグマ（偏見）の軽減や、企業の障害者理解が進む。

就労支援の評価について

- ▶ 単に就労するだけが目的ではなく、リカバリーを目指した就労支援の提供によって、その人に合った丁寧な支援が生活に充実感をもたらし、人生そのものに影響を与えるのではないかと考える。つまり、どれだけ個別化された支援が行われているか、サービスの質が評価されるべき。
- ▶ 現状の仕組みでは、利用者の就職数や工賃額等の結果評価が目目されがちであるが、生活の質や自己肯定感などといった就労以外のアウトカムにも注目すべきだろう。

体験談

働くこととリカバリー

IPS支援を受けて就労された方々たちが現在、「リカバリーキャラバン隊」として活躍されています。この日は中村孝さん、堀川正志さんのお二人にご自身の就労を通じたリカバリー体験についてお話をいただきました。

中村 孝さん



❖大卒後SEとして研究所に10年ほど勤務。高度経済成長期で毎日休みもなく激務だった。その結果幻聴や妄想が出現し発病した。入院は3回。退院後は保健所のデイケアへ通い、クローズドで清掃業に就労したが、何の薬を飲んでいるのか等職場で聞かれて、結局1年で退職した。その次はオープンで清掃業に再就職、10年程勤務した。しかし会社の業務縮小のため退職。その後ハローワークで求職し、現職に就き約7年が経つ。

- ❖現在は週5日のフルタイム勤務。年1回契約更新で特養の清掃等を実施。部下も4人出来た。雇用保険、健康保険にも加入している。
- ❖最初はジョブコーチ支援を受けていたが、今は自分で工夫して仕事ができている。
- ❖受診は8週間に1度。夜間外来なので、業務終了後受診できる。体調に応じて薬を変えてもらい、安定している。現在66歳だが出来れば70歳まで働きたい。
- ❖自分の長所は辛抱強さ。仕事をわかりやすく教えることも出来る。トータル20余年の勤務経験もある。パソコンの勉強もしている。特技はだじゃれづくり。
- ❖今は病気になってよかったと言うことが出来る。このような講演活動等の経験が出来た。皆さんのリカバリーの手本になろう、頑張ろう、と思っている。

堀川 正志さん



- ❖若い時に自動車事故を起こし、明日の命をもしれないのがむしゃらに働き、49歳でうつ病を発症した。
- ❖うつ病は全身ギブスの様な感じ。発病後5年間はひたすら寝ていたが、妻のすすめでIPS支援のある病院へ転院した。これを機に自分の中に就労社会復帰という目標が確立された。生活に動きが出て、それを察した家族も協力してくれた。
- ❖発症後8年で社会復帰した。現在は障害者雇用で週4日20時間勤務中。
- ❖POPとブログ作成が主な業務だが、最初は毎日通勤するのが精一杯だった。数年たってからようやく趣味の写真を活かした広告作成が出来るようになってきた。
- ❖自分のリカバリーの状況で写真も変わるのがわかる。主治医もそこを見て、休めるときには休むよう釘を刺されることもある。主治医とは信頼関係が出来ていると感じる。
- ❖店内のPOPを見た客が「感動した」と店に連絡をくれ、会社本部から顧客獲得に貢献したとの表彰を受けた。主治医は「企業は利益追求の団体。(堀川さんが)障害者雇用にあぐらをかくのではなく、顧客獲得、販売に貢献したから表彰されたのでは」と言ってくれた。表彰を受けたことよりも、本部から「この支店に素晴らしいスタッフがいる」と褒められたことの方が嬉しかった。
- ❖病気が治ってからではなく、今の自分のありのままの姿で社会に飛び込む。IPSに巡り会わなければ未だに就労は出来ていなかった。病気のおかげで大きく成長できた。これからのリカバリー人生が楽しみ。社会の中で役立っている、職場から褒め言葉をもらうことは最高の良薬。今後は就労より大変な定着に向け頑張っていきたい。

●リカバリーキャラバン隊とは●

IPSのサービス利用者、家族、支援者らで結成。

リカバリーの道を歩み出した人たちの声や経験を社会資源として生かし、リカバリーの力を配達するユニットとして2008年から活動を開始。

メンバーは普段はそれぞれ就労しているため、現地集合現地解散で、全国あちこちの研修会や講演会に参加して体験を語ったり、冊子・リーフレットを通じて、リカバリー、IPSの魅力を広める活動を行っている。

リカバリーキャラバン隊出版物



トーク

フロアからの質問も交え、キャラバン隊の皆様と意見交換を行いました。笑いあり、うなづきあり、しみりあり、有意義な時間を持つことができました。

★(中原さんからの質問) お二人にとっての「リカバリー」とは何だろう？

中村：一生懸命に働くこと。結婚もかな？

堀川：今を一生懸命生きること。

★(中原さんからの質問) 中村さん、働いてよかったことは？

中村：病気が回復した。いろいろな人と接しているからかな。薬も今は1錠に減った。部下も出来たし、人から信頼されるようになった。給料をもらえるし、ありがとうと言われてやりがいがある。

だじゃれを考えるのも楽しいよ。「ユカはユカイに掃除しましょう」とかね(笑)。

★(中原さんからの質問) 堀川さんも現在会社で活躍中。キャリアプロフィールにも「役に立ちたい」と書かれていた。最初は集中力がなくてハローワークで求人を探すのも15分がやっとでしたね。支援プログラムでは、一つ一つ目標を設定して進めていったが、振り返ってみてどうですか？

堀川：生活リズムのないところにリズムをつくるのが難しかったですね。「週間行動記録表」というシートに、自分の状態を赤・黄・青信号として分類した。記録表は4年間200回付け続けました。今も「今の自分は黄色の状態だから気をつけよう」と心の中で思うことがありますね。

★(フロアからの質問) 就労継続支援B型で定着支援に携わっています。現在の仕事を1年継続できている利用者の方が「やめたい」と訴えていて……。支援者としては本人にあっていと思うのですが。

中原：自分の長所を生かしていると感じるときに充実感が得られ定着につながる。その方も1年継続できているのなら何かしらの強みを感じているのかも。その確認をしてみてもいいでしょう。

堀川：やめたい理由が何なのか。私の場合は、出来ない事をやれと言われた時だった。また自分に対する評価を聞きたくて、やめないで欲しいという言葉を確認したかった時もあります。本当にあわないのか、我慢すれば道が開けるのか、当事者と支援者の見極めは重要だと思います。

中村：SEから清掃業と正反対の業務だったが、清掃業も自分にあっていると思ったから続けられたんだと思う。上司にも恵まれたね。



★(フロアからの質問) 相談支援事業所で就労移行に携わっています。目標が高く支援プログラムに不満を感じている利用者の方がいます。本人のやりたいことと自身の能力がかけ離れている場合、どう声かけすればよいのでしょうか。

堀川：最初から理想の職場はあり得ない。一生懸命そこでやって道を開いていく。好きな仕事をするには、目の前のつまらない仕事を一生懸命こなしていくことが必要。そうすることが好きな仕事に就いたときにありがたさがわかる要因だと思う。どんな仕事も一生懸命やれば、やったことが自分に刻まれて、仕事が変わってもその方向性は生きている。それが積み重なって初めて自分の夢が叶うんだと思います。目標を忘れずにやっていけば到達するし、放棄すれば自分の理想とする仕事は築き上げられないんじゃないかな。

中村：無理をしないことも大事だと思いますよ。

☆兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）会員及び賛助会員 募集中☆
お問い合わせは下記事務局までお願いします。

【年会費】

会 員（社適登録事業所）3,000円
賛助会員（団体）3,000円 ・ 賛助会員（個人）1,000円

【事務局】 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）へご連絡ください。

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2（兵庫県精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 / Fax 078-252-4981